

1

①

$$\text{階級値の計算の仕方} = \frac{\text{階級の最小値} + \text{階級の最大値}}{2}$$

度数の数え方・・・正の字を書いて地道に数えましょう。

②相対度数の計算はどこまでか・・・四捨五入により小数第2位まで。

合計が1.00になるように調整するのが一般的であるが、本問ではその必要はない。

2

①仮平均による計算の仕方を紹介しましょう。

仮平均を50（いくつでもよい。後で計算が楽なもの。）としたとき、

体重	50	44	62	70	55
体重-仮平均	0	-6	12	20	5

$$\text{平均値の計算の仕方} = \frac{0 - 6 + 12 + 20 + 5}{5} + 50$$

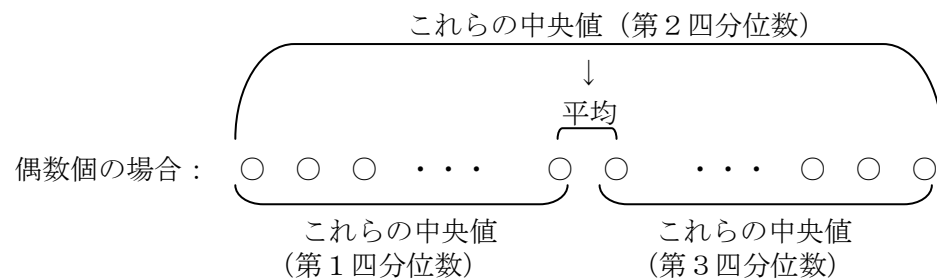
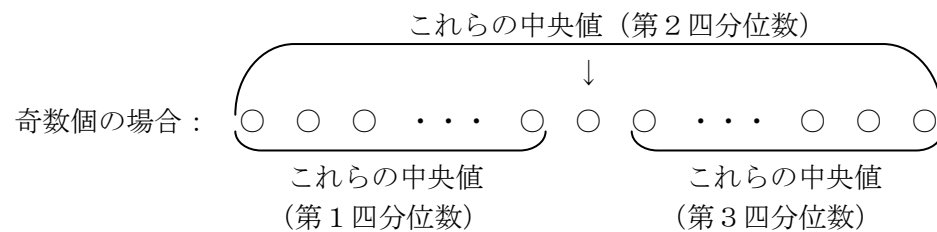
これで計算できます。

③左から昇順（小→大）に並べると、

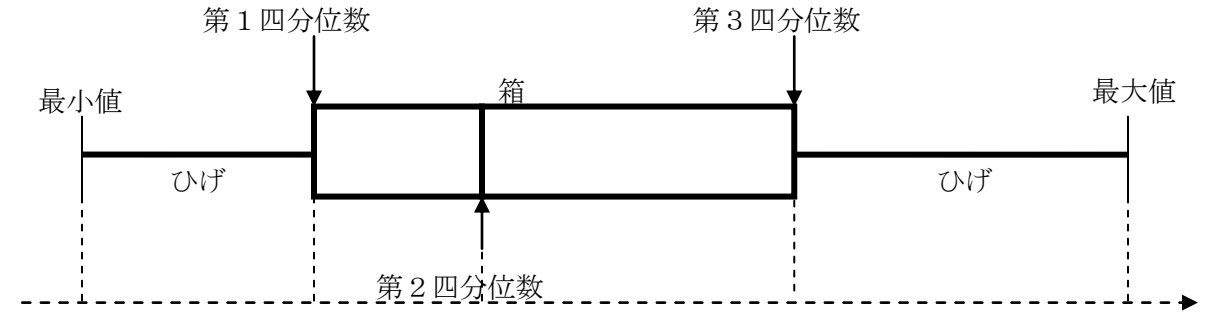
44, 50, 55, 62, 70

↑
これが、中央値

3



箱ひげ図のかき方



3

③ “数学の分散” の計算の仕方 =
$$\frac{(6-\bar{x})^2 + (4-\bar{x})^2 + (7-\bar{x})^2 + (3-\bar{x})^2 + (5-\bar{x})^2}{5}$$

⑤標準偏差 = $\sqrt{\text{分散}}$ と計算することになっています。

電卓を使って計算しましょう。

⑥計算の仕方を教科書で調べてみましょう。

⑦計算の仕方を教科書で調べてみましょう。

$\sqrt{2} = 1.41$ として、四捨五入により小数第2位まで計算して下さい。

正の相関について、0～0.2 ほとんど相関なし

0.2～0.4 弱い相関

0.4～0.7 比較的強い相関

0.7～1 強い相関

と判定するのが一般的です。